

平成30年度第1回放送番組審議会 議事録

開催日時 平成30年9月11日(火) 14時から15時30分
開催場所 三次商工会議所 2階会議室
出席者委員 添田龍彦・千崎由博・宗清弘樹・平岡淳・岸田立・山岡幸子
前田茂・岩崎積・石田睦子
欠席者委員 落田正弘・重信富子
説明員 (株)三次ケーブルビジョン
新宅代表取締役社長・林常務取締役・幸住管理課長・津田営業課長
坪井技術課長・野田企画課長・向井制作課長

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。任期満了に伴い、出席者委員9名に対して代表取締役社長が放送番組審議会委員の委嘱状を交付、続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 正副会長互選 放送番組審議会規則第5条に従い、会長及び副会長の選出に入り、会長に添田龍彦氏、副会長に重信富子氏が選出された。(尚、事務局より欠席の重信委員に予め副会長就任の了解を得ていることを述べる。)
- 3 会長挨拶 添田会長が就任にあたり挨拶を行い、放送番組審議会の務めを果たすために、委員の皆さんの支援と協力をお願いしたいと述べた。
- 4 審 議 審議に先立ち、制作課長が7月9日に放送した『豪雨災害』の特集番組について、資料に基づき企画意図及び番組概要を説明した。(事前にDVDを送付した。)

会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見を願います。

委 員 今回の災害は、県南部に大きな被害が発生し、メディアがそちらに集中したので、ケーブルテレビで地元の状況を伝えてもらったのは良かったと思う。その中で感じたことは、被害状況を伝えるのに、まず三次市全体の地図を示してあれば、水害のあった場所や土砂災害の状況がよくわかったのではと思った。テロップで場所や地名が出ていたが、住所だけでは判りにくかった。

番組の始めにゴミの処理方法について放送されていたが、市内全体の被害状況をまず放送した方がよかったのではないか。その後で、断水や給水情報、ゴミの処理方法や災害時の注意事項などをまとめて放送した方がよかったのではないかと感じた。災害はいつ起きるか判らないので、市全体に状況が伝わるように編集をしていただいて、放送してほしいと思った。

委 員 増水した河川の状況や、浸水したり土砂崩れが起きた生々しい現場の映像を見て、まずは「怖いな」という印象を持った。自然災害の恐怖や凄まじさが、

見た人に十分に伝わったと思う。視聴者と言っても、被災された方とそうでない方に分かれる。被災の有無によって番組の見方や感じ方が大変違ってくだらう。そういう意味で、被災された人向けの情報なのか、そうでない人向けなのかをもう少し明確にした方が良かったのではないかと思う。

今回の番組は、後世に残す貴重な記録映像の役割も果たしていると思う。災害被害は時間がたつと風化していくので、これを機会に、市民の防災意識を高めるような番組制作に取り組んでほしいと思う。

委員 ドローンの映像が何か所かあったが、工夫されていて分かりやすかった。クリーンセンターのインタビューの場面で、聞く人と話す人の音声は双方入ってちゃんと会話されていたのが良かった。局舎の前の道路が冠水して水が噴き出している映像があったが、大きな川だけでなく生活道路の状況もよくわかった。

気になったのは、きりりホールや西三次駅周辺の被害状況が放送されていたが、三次市内のどこか、市内の地図があれば判り易かったと思う。クリーンセンターでの取材の時に映っていた軽トラックのナンバーは消しておいた方が良かったのではと思う。

ライフライン関係の情報を皆さん知りたいと思うが、アナウンサーが話すだけでなく、断水の地域や給水場所とか、消毒の申し込みとかの情報がテロップで流れていけば情報が取れて良かったのではと思う。

委員 私は八次コミュニティセンターの避難所に居た。今まで避難所開設が何度かあったが、初めて避難者を受け入れた。続々と避難される方が来られて、卸センターが浸水したと聞いたが、今回の映像を見て初めて全体像が掴めた。

先日、市と国公省が説明会を開催して、水害についての説明があったが、今後、このようなことを繰り返さないために、住民と行政の対話が出来たらよいと思った。今回の放送は貴重な映像を記録したものであるので、これを活かしてほしい。

委員 十日市コミュニティセンターにも大勢の市民が避難された。ピオネットの情報は身近なものだった。夜間の雨の中、色々な場所の映像を映されていた。ドローンの映像も上空からの様子が良くわかってすごいと思った。

給水の場所が分かりにくかった。テロップを流したらよかったのでは思った。

委員 畠敷地区は、用水路と排水路に挟まれた地域であって、内水が排水されず、増水が早かった。警報や避難情報をずっと聞いている訳にはいかなかった。何回も臨場感のある放送を流してほしいと思っている。

畠敷地区では、いつも水害に遭うところが決まっている。きりりホールが避難場所として適しているかという問題があるが、地震や洪水といった自然災害

時の防災訓練も計画的に実施するべきだと思う。

制作スタッフは、取材時の危険性も充分考慮して、行動してほしい。

委員 災害の報道はされるが、被害の原因や検証をまとめて、後日放送することもしてほしい。

今回、鵜飼乗船場等の被害状況も放送されたが、三次市では鵜飼を観光の目玉としているので、あまり放送で流さない方がよかったのではないかと思った。

委員 豪雨当日の夜、ずっとピオネットの放送をみていたが、画面が動かない時があったりして、じれったい思いがした。まわりがどうなっているか情報がほしかった。部分的に、土砂崩れがあったり増水したりといった情報はあったが、三次市内の3本の大きな川の様子が判れば、どうやって避難すればよいかとか、避難経路が考えられてよかったと思う。危険に身をさらして取材されていたが、スタッフの身を守るために目立つ色の服装にすることも必要だったのではと心配した。色々な場面の映像を取材されていて、全体像が判って良かった。

会長（司会） 私からも感想を言わせていただく。皆さんからご意見があったように、地元の身近な場所の被災状況を詳しく知ることができたのが一番だったと思う。局舎前の冠水の映像は、被災現場の恐怖を生々しく感じられた。今回の被災状況や避難状況、交通情報、警察からの注意喚起など市民生活に役にたつ情報がかなり多く、良かったと思う。特に警察からの注意喚起情報は、被災して気落ちされている方たちが詐欺に遭うのを防ぐのに非常に効果的だった。復旧作業する時の準備物や、熱中症の予防方法はかなり参考になった。

市内には福祉施設が何か所かあるが、その中には、三次市と福祉避難所の契約を結んでいる施設がある。福祉避難所の紹介もあれば、避難弱者の方達、高齢者の方や障がいを持っておられる方のための専門施設が福祉避難所としての受け入れができるということで、避難弱者の方達も安心されるのではないかと思う。

委員 報道関係の方をお願いしたいことは、幼児や高齢者の方には早めに避難場所へ避難するように広報してほしい。今回は増水が思っていた以上に早かったが、ひょっとしてということが想定されるなら、早めに避難するように連絡網での連絡なり、広報をしてほしい。

委員 ピオネットのチャンネルの中に、祝橋や巴橋が映る定点カメラの映像があるが、どこに何か所カメラを設置しているのか。

社側 当社のカメラは、3台ある。願橋が映っている局舎に1台、巴橋を映している老人保健施設「あさぎり」に1台、巴橋のたもとにある大久保ビルに1台。ほかに、国土交通省のカメラが1台、祝橋を映している。

三次市からの要請があったことと、夜間は他の場所は真っ暗で映像が見えなくなるので、照明の点いている祝橋のカメラの映像を流していた。

委員 地域のお年寄りから、こうした災害を機に、この地域ではどのくらい雨が降ったら危険だという情報を聞いて記録しておくことも必要だと思う。ピオネットの取材を通してそういったことを残していくことも一つの方法だと思う。

委員 三次ケーブルビジョンにお願いしたいのは、こうした災害の後に、例えばため池の決壊について、ため池の管理を地元がどうしていたか、県が管理していたのか、決壊の原因は何だったのかといったことを長いスパンで取材等をして番組を作ってもらえたら有難いと思う。

委員 災害時の取材にあたって、どういうことをポイントにされたのか。

社側 6日の金曜日は、夜間になり規制が敷かれていたので、局舎周辺の取材となった。誰もが取材できるわけではなく、また撮影しても真っ暗で映像が見えないため、街灯の近くでといった制限があった。ほとんど夜が明けてからの取材となった。

夜間の放送をどうするかは今後の課題となっている。災害時の状況は刻々と変わるので、撮影しても、時間が経って水位が更に上がったら、受け手の反応も変わってくる。放送のタイミングも考えないといけない。氾濫しやすい場所だったり、川の合流部分といった分かりやすいところを取材して放送した。

委員 最近の豪雨は、47年の豪雨の時と形態が変わってきていると思う。帯状の雨雲が居座って豪雨になる。防災マップが必要なのではないかな。通行止めになり、孤立状態になって衣類や食料といった物資が入ってこなくなったら、どうするかといったことを想定して防災のイメージを作っておく必要がある。物資の備えも必要だろう。半世紀に一度来るかもしれない大災害を想定して意識作りを啓蒙するよう報道関係者にお願いしたい。

会長（司会） ケーブルビジョンには、市民に対して情報提供や注意喚起を更にさせていただくようお願いしたい。

委員 今回いろいろ取材されたことを基に、被災した方がどういう風なことを今後に向けて感じておられるか、被災はしなかったけれど、映像や体験からどういうことを学ばれたかを追っていくことも必要なのではないかなと思う。三次市民の意識の向上ということで、今回の行動を基に学んだことを次に繋げていきたいと思う。

会長（司会） 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日はたくさんの貴重なご意見をいただき感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

5 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録をHPに掲載することを伝え、閉会した。